

**新しい美浜の学校教育に関する基本方針及び
小中一貫教育学校の整備に関する基本構想・基本計画の策定に向けた住民説明会 摘録**

【日時】

- ① 令和8年4月4日（土） 10時00分～12時00分
- ② 令和8年4月4日（土） 14時30分～17時00分
- ③ 令和8年4月4日（土） 19時00分～21時00分
- ④ 令和8年4月5日（日） 10時00分～12時00分
- ⑤ 令和8年4月5日（日） 14時30分～16時30分

【場所】

- ① 旧三尾小学校 2階音楽室
- ② 松原小学校 体育館
- ③ 松洋中学校 体育館
- ④ 松洋中学校 体育館
- ⑤ 和田小学校 体育館

【参加者】

計 約 50 名

【事務局】

美浜町教育委員会 塩崎教育長

美浜町教育委員会教育課 北村課長、伊藤指導主事（主幹）、徳田係長

(株)地域計画建築研究所（アルパック） 間瀬（③、④、⑤出席）
清水（①、②、③出席）
増見（①、②、③出席）
城本（③、④、⑤出席）

【配布資料】

- ・新しい美浜の学校教育に関する基本方針及び小中一貫教育学校の整備に関する基本構想・基本計画の策定に向けた住民説明会
- ・有識者による講演会資料
- ・アンケート記入用紙

発言者	内 容 (口 述)
1. 開会	
事務局	(出席者紹介・資料確認)
事務局（教育長） より挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・本説明会は、「新しい美浜の学校教育に関する基本方針」及び「小中一貫教育学校の整備に関する基本構想・基本計画」の内容や検討状況を、町民の皆さまに広く共有するために開催しました。 ・美浜町教育委員会では、より良い教育環境と質の高い学校教育の実現を目指し、和田小学校と松原小学校を統合したうえで、9年間を連続した学びとして位置づける施設一体型の小中一貫教育学校の整備に向けた取組を進めています。 ・そのため、策定支援業務を委託するとともに、学校関係者、保護者、地域関係者、教育委員代表、学識経験者などで構成する検討委員会を立ち上げ、検討を進めています。 ・この取組は、単なる学校統合や施設整備ではなく、美浜町における教育改革として「新しい美浜の学校教育」を形にしていこうとするものです。
2. 小中一貫教育に関する説明	
2-1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について	
事務局（教育長） より説明	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化が急速に進み、先行きが見通しにくい時代の中で、子どもたちには「生きる力」がこれまで以上に求められており、美浜町においても、9年間を通した一貫した教育の必要性が高まっています。あわせて、AI技術の進展や「令和の日本型学校教育」の方向性を踏まえると、「持続可能な社会のつくり手」を育てる教育が重要になっている一方で、全国的な少子化の中、美浜町でも児童生徒数の減少が進んでいます。 ・児童生徒数の減少は、人間関係の固定化や新たな関係を築く機会の減少につながるうえ、松原小学校と和田小学校では校舎の老朽化も進んでおります。さらに、現在の校舎は、現代の教育に求められる学びの多様化への対応が困難になってきています。このため、美浜町では、児童数減少という課題と、施設老朽化という課題を一体的に捉え、小学校統合と小中一貫教育の導入を進める必要があると考えています。 ・実際に、これまでも統合や小中一貫教育の導入は検討されてきましたが、見送りとなってきました。その後、令和5年以降、校舎老朽化への対応を急ぐ必要性が高まったことから、新しい学校づくりに向けた検討が本格化しました。こうした動きの背景には、国において義務教育9年間を通じた目標が位置づけられ、学校教育法の改正によって「義務教育学校」が制度化されるなど、小中一貫教育を進めやすい制度環境が整ってきたこともあります。
2-2 小中一貫教育に関する制度説明	
事務局（教育長） より説明	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜町が目指しているのは義務教育学校ではなく、小学校6年・中学校3年の区切りを残した小中一貫教育校であり、これまで大切にしてきた伝統や教育の取組も引き継ぎながら、新しい学校づくりを進めていきたいと考えています。 ・今後は、松原小学校と和田小学校を統合し、小中一貫教育を進める

	<p>方向で検討を進めるとともに、施設形態としては全国調査の結果でも高い満足度が示されている施設一体型を想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このように、美浜町では、社会の変化に対応できる教育の実現と、少子化・施設老朽化への対応を一体的に進める中で、子どもたちがわくわくして通え、保護者や地域にとっても魅力のある新しい学校を目指し、関係者の声を聞きながら、美浜町に合った形を検討していく予定です。
<p>2-3 有識者による講演会（映像）</p>	
<p>「小中一貫教育の展開とその成果および課題」</p>	
<p>安藤准教授 （映像）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育は、学力向上や生徒指導上の課題への対応に加え、少子化による集団規模の縮小の中で、子どもたちの社会性や人間性を育てる必要性から導入されてきたものであり、その導入理由は自治体ごとに異なります。 ・その背景には、小学校から中学校への進学時に生じる「中1ギャップ」や、子どもの早熟化、小学校と中学校の学習面・生活面の違いがあり、こうした段差を和らげながら、9年間を通して子どもの成長を支えることが求められています。 ・このため、小中一貫教育では、義務教育9年間を一体的に捉え、教職員が共通の意識のもとで子どもを育てることが重視されています。制度上は、義務教育学校と小中一貫校で校長配置や教員免許、教育課程などに違いがあるものの、いずれも連続的な学びを支える仕組みとして位置づけられています。 ・文部科学省の調査では、小中一貫教育の成果として、学習規律・生活規律や学習習慣の定着、学習意欲や授業理解の向上に加え、児童生徒の満足度や規範意識の向上、異学年交流による思いやりや憧れの気持ちの育成、中学校進学への不安軽減などが挙げられています。 ・また、成果は子どもだけでなく教職員や学校運営にも及んでおり、教職員間の連携や協働意識の向上、指導方法の改善、保護者や地域の学校教育に対する満足度の向上にもつながっています。 ・一方で、9年間を見通した指導計画や教材づくりの難しさ、学校間の移動時間や安全確保、教職員の打合せや合同研修の時間確保、負担感や多忙感への対応などは課題として残っています。 ・さらに、カリキュラム面では、中学校内容の先取りを進めすぎると新たなギャップを生むおそれがある一方で、中学校進学という節目が薄れすぎることにも課題があるため、何をつなぎ、どこで区切りを意識させるかを丁寧に考える必要があります。 ・そのため、小中一貫教育を進めるうえでは、学校行事や生活・学習規律の共有、共通の教育目標や学校経営理念の設定などを通じて、9年間の系統性を確保することが重要となります。 ・こうした仕組みが整うことで、子ども同士の継続的な関わりの中でリーダーシップやフォロワーシップが育まれるとともに、教職員も長期的な視点で子どもの成長を捉えながら協働し、学校全体として教育の質を高めていくことが期待されています。
<p>「学校づくりはまちづくり ーみんなで創る美浜の未来ー」</p>	

<p>鈴木特任教授 (映像)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜町は、海や山、海岸、松林に囲まれた他にない立地特性があり、こうした地域資源を生かした学校づくりが重要です。 ・令和 15 年春の開校に向けた 7 年間の検討では、特に最初の 2 年間で重要であり、単なる既存校の更新ではなく、新しいハードとソフトを一体で構想する必要があります。そのためには、行政、学校、保護者、地域住民、専門家がチームとして本気で取り組むことが求められます。 ・その際、学校づくりは教育施設の整備にとどまらず、地域の将来像やまちづくりそのものを考える機会でもあります。人口減少が見込まれる中で、25 年後、50 年後の美浜をどうしたいかという共通のイメージを持ちながら、学校の役割を考えることが必要です。 ・こうした学校づくりは、行政や設計者だけでなく進めるものではなく、教職員、子ども、保護者、地域住民などが早い段階から関わり、構想段階で目標や方向性を共有することが重要です。そこが曖昧なまま進むと、後の設計や整備段階で認識のずれが生じやすくなります。 ・また、学校は「こういうものだ」という固定観念で考えるのではなく、「どのような学びを実現したいのか」という視点から、教室配置や家具、空間の使い方を柔軟に見直す必要があります。海外や国内の先進事例も参考にしながら、これまでの画一的な学校像を問い直すことが求められます。 ・その上で、学校づくりでは、学習環境の再構築が特に重要であり、オープンな空間や柔軟な家具配置、多様な学び方に対応できる場づくり、特別支援への配慮、教職員の働く環境の改善なども含めて考えていく必要があります。 ・さらに、地域との協働、安全性、災害対応、環境配慮、学校運営体制の見直しなど、学校を取り巻く課題は多岐にわたるため、ハードとソフト、学校と地域の両面から整理しながら検討を進めることが重要です。 ・最終的には、AI や設計技術だけではつukれない、美浜町としてどのような学校を目指すのかという根本の考え方を共有し、それを土台に関係者が一体となって学校づくりに取り組むことが大切です。
<p>2-4 事例紹介 (小中一貫教育・学校施設整備について)</p>	
<p>アルパックより 説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小中一貫教育について ・小中一貫教育の事例では、6-3 制を基本的に維持しながらも、9 年間を見通して発達段階に応じた教育課程を組み立て、学習内容の連続性を高めることで、「中 1 ギャップ」の緩和が期待されています。 ・また、異学年交流を取り入れている例もあり、中学 1 年生が小学 6 年生に向けてレクリエーションを企画・運営するなど、小学生が中学校の雰囲気や先生に事前に触れられる機会を設けることで、進学への不安の軽減につなげています。こうした取組は、小学生に安心感を与えるだけでなく、中学生にとっても主体性や協働性、リーダーシップを育む機会となっています。 ・さらに、小学校と中学校の教員が相互に授業を担当する「乗り入れ指導」を行い、専門性を生かした学習の充実や、9 年間を通じた学びの系統性・連続性の確保を図っている例も見られます。 ・このように、小中一貫教育では、教育課程の工夫、異学年交流、教

	<p>員同士の連携を組み合わせることで、9年間を通じた連続性のある学びと育ちを支えることが重視されています。</p> <p>●学校施設整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設整備にあたっては、単なる建替えではなく、文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を踏まえ、多様な学びや活動に対応できる柔軟な空間づくり、社会変化への対応、関係者による目標共有といった「未来志向の視点」を持つことが重要です。 ・具体的な工夫としては、ロッカーなどの移動可能な家具を活用し、授業や活動に応じて空間を柔軟に使い分けられるようにすることが挙げられます。こうした工夫は、学びの多様化を支えるだけでなく、子どもたち自身が環境を整えながら学ぶ姿勢にもつながります。 ・また、学校図書館とコンピュータ教室を有機的に結びつけることで、図書資料による考察とICTを活用した情報収集・発信を往来しやすくし、探究的な学びを支える環境を整えることができます。 ・さらに、木材の活用やリラックスタイプの家具の配置などにより、学校を安心感のある温かい生活空間として整えることも重要です。こうした空間は、自然な交流や休息を促し、登校したくなる魅力ある学校づくりにつながります。 ・学校施設を検討する際には、事例をそのまま取り入れるのではなく、目指す教育をどのように空間として実現するかを考える必要があります。特に施設一体型の小中一貫校では、9学年が同じ場で学ぶ特性を生かし、児童生徒、教職員、地域住民、本や作品、自然など、多様なヒト・モノ・コトと自然に出会える空間づくりが重要です。 ・そのためには教職員、保護者、地域住民が将来の学校像を共有しながら、ハードとソフトを一体で学校づくりを進めることが大切です。
<p>2-5 今後のスケジュールについて</p>	
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、新しい美浜の学校教育検討委員会では、約2年間の検討を想定しています。最初の1年は「新しい美浜の学校教育に関する基本方針」として、ソフト面である小中一貫教育について検討を行う予定です。次の約1年は「小中一貫教育学校の整備に関する基本構想・基本計画」として、ハード面である学校の配置や建物について検討を進める想定です。検討期間中には、地域住民や保護者に向けた説明会、アンケート、ワークショップの実施に加え、検討委員会での先進校視察なども行い、住民の理解や意見を得ながら検討を進める流れを考えています。 ・次に、開校までの想定スケジュールについては、現時点ではまだ検討前であるため、あくまでイメージです。検討委員会に約2年間、その後、校舎等の設計に2028年・2029年の約2年間、校舎の建築・改築に2030年・2031年・2032年の約3年間を要する見込みであり、開校は2033年度（令和15年度）を想定しています。 ・また、開校までには検討委員会での議論に加え、教職員に対する研修や、教育課程、校歌、校章、制服など、さまざまな事項についても検討を進めていく予定です。

3 質疑応答 (①旧三尾小学校)	
	(質疑なし)
3 質疑応答 (②松原小学校)	
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の中で、小中一貫教育を導入する意義についてお話がありましたが、具体的にこれまでの教育とどのような違いがあるのか、また、これまでの教育が悪かったということなのか、もう少し詳しく教えていただきたいです。 ・単に建物が一緒になるだけではないのかという点も含めて、どのような効果が期待できるのかをお聞きしたいです。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育のポイントは、単に施設が一体化するということではなく、子どもたちの成長を9年間の連続した期間として捉え、継続的に支援できる点にあります。例えば、小学生と中学生が同じ環境で生活することで、年上の児童生徒が年下の子どもを支援する場面が生まれます。その中で、思いやりの気持ちや社会性が育まれるといった効果が報告されています。 ・一方で、小学生にとっては、中学生の姿を身近に見ることで、自分の将来の姿を具体的にイメージできるというメリットがあります。異学年の交流が自然に生まれる環境は、人間関係の形成や成長の面で良い影響があると考えられています。 ・また、これまでは小学校6年間を終えると、一旦学校が変わり、人間関係や指導体制が途切れる面がありましたが、小中一貫教育では9年間を通して子どもを見守ることができ、教員同士の連携も進むことで、よりきめ細やかな指導が可能となります。 ・これまでの教育が悪かったということではありません。社会環境等の変化の中で、新たな課題に対応するための一つの制度として、小中一貫教育を検討しています。
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校と小中一貫型学校の違いについて、教えていただきたいです。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校は、小学校と中学校という区分を設けず、9年間を一つの学校として運営する形態です。前期課程6年間、後期課程3年間に分かれていますが、学校としては一体となっています。一方、小中一貫型学校では、小学校と中学校という組織は残しつつ、教育課程や指導の連携を図る形態です。例えば、中学校の教員が小学校の授業を担当したり、合同で行事を行ったりする連携があります。 ・また、義務教育学校では校長は原則1人ですが、小中一貫型学校では、小学校と中学校それぞれに校長が配置されるケースがあります。
参加者 B	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経過説明等を聞いて、未来の子どもたちのためにも、ぜひ成功させていただきたいです。ただ、これまでの伝統や地域性、校風を大切にしながら進めていくことも重要であると思いますが、その点はどのように考えておられるのでしょうか。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおりです。これまで地域で培われてきた教育の良さを大切にしながら、新たな取組を進めていくことが重要だと思っています。
参加者 B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導要領など、教育内容は毎年見直していくのでしょうか。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容は、一度決めたらそれで終わりではなく、実施しながら評

	<p>価と改善を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安藤先生の動画でもメリット・デメリットがあると言われているように、メリットをより大きくし、課題については改善していくという姿勢で進めていきたいと考えています。
参加者 C	<ul style="list-style-type: none"> ・この話題は先日、新聞でも大きく取り上げられていました。今後の検討においては、子どもの意見を取り入れることが非常に重要だと思います。将来、美浜町に戻り、子育てをしたいと思ってもらう意味でも、子どもの意見をぜひ取り入れていただきたいです。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意見を取り入れることは非常に重要と考えています。今後、子どもたちのみならず地域住民の意見把握に取り組む予定であり、地域の方々の意見を踏まえながら検討を進めていく予定です。
参加者 C	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育はどうなるのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で確定しているわけではありませんが、子どもたちの利便性や安全性を考えると、小中一貫校の敷地内または近接する場所に設置することが望ましいと考えています。具体的には、今後検討していくことになります。
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や教室の配置等については、どのように考えているのでしょうか。また、教科書も新しくなるのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を導入しても、教育内容が大きく変わるわけではありません。現在使用している教科書や教育課程を基本としながら、9年間のつながりを意識した指導を行います。 ・教室の大きさや配置については、クラス替えが可能な一定規模が望ましいですが、児童生徒数の推移等も考慮しながら検討していく必要があります。
参加者 C	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校特例校のような取組は検討されているのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校特例校は、少人数での学習環境を整えることを目的とした学校です。今回の本町のケースには当てはまらないと考えています。
3 質疑応答（③松洋中学校）	
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・質問ではなく意見になりますが、今回の取組の主役である子どもたちの意見や考えを、第一に大切にしてほしいと思います。そのため、子どもたちにも分かる形で、今考えていることや学校の集約に向けた内容を丁寧に説明したうえで、どのような学校がよいか、どのようなことをしていきたいかを一緒に聞いてほしいです。また、新しい学校に対して子どもたちが心配や不安に思っていることもしっかり聞き取り、今後の学校づくりに活かしてもらいたいです。そうしていただくと、保護者としてもありがたいです。 ・また、この地域では地震や津波などの災害に対する不安も大きいと思いますので、津波にどのように対応するのかという点も含め、防災に十分配慮した安心・安全な学校づくりを基本に考えていただきたいです。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、子どもたちの意見についても十分に聞いていく必要があると考えており、アンケートの実施も含めて検討していきたいと思います。 ・いただいたご意見を踏まえて、検討を進めていきます。
3 質疑応答（④松洋中学校）	

参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり壮大な計画であり、本当に話がまとまっていくのかと感じています。 ・現在ある松洋中学校の建物は、今後も利用するのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・松洋中学校の校舎は平成6年頃に建設された建物で、築後まだ30年程度であるため、できる限り活用していかなければならないと考えています。
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・松洋中学校の敷地内に新しい建物ができるのだらうと思いますが、現在の小学校は300人に満たない規模であり、将来的にはさらに少なくなることも考えられます。その場合、小学校だけの建物を別に整備するのではなく、小中一貫校として松洋中学校の建物も活用しながら、例えば小学校5年生、6年生あたりから中学校の建物に入るような形にすることや、1年生から4年生までを別の建物にするといったことも考えられるのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備に関する詳細については、まだこれからの検討になりますが、基本的には既存施設をできる限り活用する方向で考えています。例えば、特別教室などについては、今後どのような使い方になるかはまだ分かりませんが、既存校舎の中で活用しながら、必要な部分について整備していくことになるのではないかと考えています。また、いただいたご意見のとおり、小学生が中学校の校舎内に入るような形が可能なのか、あるいは改築や改修が必要になるのかといった点も含めて、今後検討していかなければならないと考えています。
参加者 B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が最も心配するのは、学童保育や放課後クラブを中学校の横につくるとすれば、どの場所に確保するのかという点であると思います。この周辺にはあまりスペースがなく、現在は松原小学校も和田小学校も近くに学童があるため、仕事のある家庭にとっては非常に助かっています。そのため、その場所がきちんと確保できるのかということが、一番心配しているところです。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育については、授業が終わったあとに今の施設まで移動する形では安全面に不安があるため、新しい小中一貫校の近くで確保する必要があると考えています。そのため、学童保育は新しい学校の敷地内で整備する方向で考えています。場所はまだ決まっていますが、校舎の一部を活用することも含め、今後検討していく考えです。また、敷地内での整備を想定しているのは、松林をできるだけ残したいと考えているためです。建築にあたっては一部を伐採する必要が生じる可能性はありますが、できるだけ少なくしたいと考えています。現時点では、このような形で進めることを想定しています。
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく新しい学校をつくるのであれば、町としても、まちを盛り上げる核となるような位置付けにしてほしいと思います。学校が拠点となって美浜町全体が活性化し、周囲からも注目されるような場になればよいです。例えば、公民館などの機能も一体化し、町民が日常的に訪れ、学校と関わりを持てる場所になれば、町民の学校への関心も高まり、子どもたちにとっても地域の方との交流が増えるのではないかと思います。常に誰かが興味を持って訪れることができる学校になれば、学校に関心を持つ人もさらに増えていくのではないかと思います。また、カルチャースクールのような取組も学校

	<p>の中でできるようになれば、さまざまな人が集まる場になると思います。もちろん、人が入る以上は安全性の確保が必要になりますが、そうした点も踏まえながら、学校づくりとまちづくりを一体的に考え、この場所が町の中心となるような構想として進めてもらえればと思います。</p>
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> 鈴木先生の講演資料の中にも、地域施設との複合化という発想が示されており、実際にそのような形で取り組んでいる事例があることは認識しています。そのため、新しい学校にどのような機能を持たせることができるのか、地域施設との連携や複合化をどのように考えるのかといった点については、今後の検討課題としていきたいと考えています。
参加者 B	<ul style="list-style-type: none"> 和田小学校と松原小学校の跡地を今後どのように活用するのか、まだこれからの検討だとは思いますが、現時点でお考えがあれば教えてほしいです。また、美浜町では少年野球が毎日のように練習も行われ、美浜の野球は強いと言われており、地域の魅力の一つになっていると思います。もし小中一貫校の整備により、そうした活動に支障が出るようであれば心配ですので、今ある野球などのクラブ活動をできるだけ守っていける形にしてもらえたらと思います。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、跡地活用についてはまだ全く白紙の状態であり、具体的な方針は決まっていません。ただ、和田小学校、松原小学校のいずれにも広いグラウンドがあるため、運動利用や地域住民がさまざまな形で活用できる場として残していけるような形が望ましいのではないかと考えています。最終的にどうなるかは、現時点では断言できません。また、既存建物をどうするかについても、老朽化の問題などがあり、簡単ではないと認識しています。ただし、グラウンドについては大事にしていきたいと考えています。
参加者 C	<ul style="list-style-type: none"> 完成時期は 2033 年を想定しているとのことですが、これが前倒しになる可能性はあるのでしょうか。また、小中一貫校になれば、子どもたちの学びや学校生活にこれまでと異なる変化が出てくると思いますが、そのあたりはまだ先の検討事項という理解でよいのでしょうか。
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> そのように考えています。本格的な実施にあたっては、まず小学校と中学校が別々に学んでいる段階では、教育内容を完全に一体化していくことは難しい面があります。また、カリキュラムについては学習指導要領に基づくため、小学校で学ぶ内容、中学校で学ぶ内容そのものは、基本的には現状を踏まえて進めることになると考えています。一方で、小中一貫教育を導入した後は、これまで別々に学んでいた中では難しかったこと、例えば総合学習の中での特色ある学びなどについては、より柔軟に考えていけるのではないかと考えています。教科の学習内容そのものは大きく変わらない印象ですが、その運用や連携のあり方については、今後さまざまな意見を聞きながら検討していくこととなります。完成時期が早まる可能性については、建築に 3 年程度を見込んでいますが、仮にこれが 2 年で進められる、あるいは設計期間を短縮できるといったことがあれば、その分だけ 1 年程度前倒しになる可能性はあるかもしれません。ただし、この点については専門的な判断が必要であり、現時点で明確な

	<p>ことは言えません。周辺自治体の事例を見ても、設計や建築には相応の期間と負担がかかるものと認識しています。</p>
<p>3 質疑応答 (⑤和田小学校)</p>	
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、松原小学校、和田小学校、松洋中学校の先生方は、どのように受け止めているのでしょうか。学校現場の先生方から、どのような反応や意見が出ているのか伺いたいです。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、まだ検討を始めた段階であり、教職員に対して直接意見を聞く場を正式に設けたわけではありません。ただし、学校訪問など、学校と意見交換をする機会の中で、美浜町が目指している方向性については繰り返し説明してきています。直接的に意見を集約する段階には至っていませんが、学校側に考え方を伝える機会は重ねているところです。
参加者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜町は海岸沿いに位置しており、南海トラフ地震や津波への不安を多くの住民が抱えていると思います。和田小学校でも避難訓練の際には屋上へ避難していますが、新しい学校の整備にあたっては、防災教育や防災拠点としての視点を強く持ってほしいと感じています。例えば、建物を高くする、高床式とする、屋上を避難スペースとして活用できるようにするなど、避難タワーのような役割を持たせる考え方もあるのではないかと思います。また、津波対策として1階部分を吹き抜けにする考え方や、塩害対策、耐久性の高い材料の活用なども含め、防災を意識した設計を行うことで、住民にとっても安心感が高まり、防災意識を共有する拠点にもなり得るのではないかと感じています。個人的な意見ではありますが、そうしたことも含めて、設計はまだこれから考える余地があるのか、それとも大枠はすでに決まっているのか伺いたいです。
事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・設計については、現時点ではまだ白紙の段階であり、今後、住民の意見や専門家の意見も聞きながら検討していくこととなります。現時点で具体的な施設計画が固まっているわけではありません。また、防災面、とりわけ津波への対応については、この地域において極めて重要な視点であると認識しています。新たに校舎を整備する場合にも、まずは津波にどのように対応するかを大前提として考える必要があると考えています。学校は子どもたちの学びの場であると同時に、地域にとっても重要な施設ですので、地域の防災拠点としての役割を持たせる視点も含め、今後検討していく余地があると考えています。
<p>4. 閉会</p>	
	<p>以上</p>